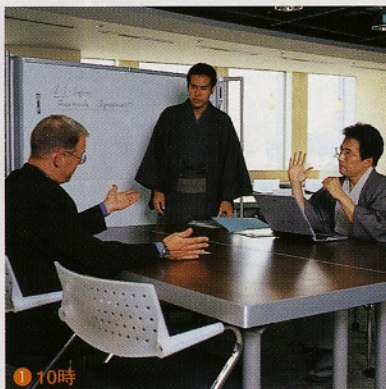


日本の色 ● 黄丹：「おうに」「おうだん」。太陽の色を象徴し、古来、皇太子の位を表す。禁色として他の者の使用は禁じられた。べにはなとくちなして染める。



② 11時30分

②：ビジネスの打ち合わせは無事に終わった。今後始まる事業への思いを語り合う。

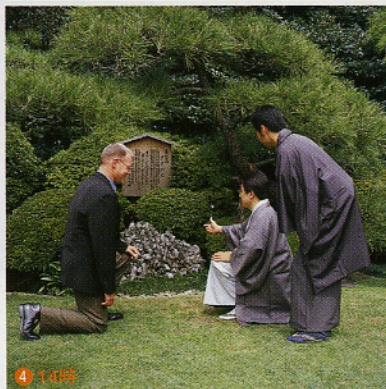


① 10時

### 着物で会議。その後、観光

米国のビジネス相手と半年かけてプロジェクトを練ってきた。事業開始前に最終決定案をまとめるために、2週間前から、ビジネス相手が来日している。話し合いは順調に進み、今日は最終日。朝に今後のスケジュール確認をして、午後はゆっくり日本を味わう時間。着物で案内し喜んでもらう。

①：丸ビルで打ち合わせ。プロジェクトの最終案は、この2週間の滞在中にまとまった。



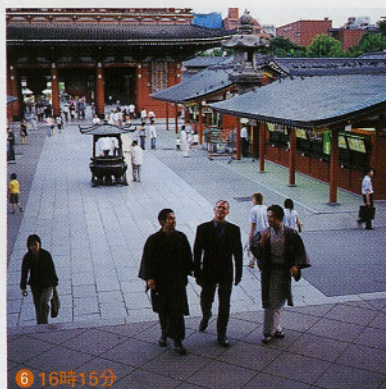
④ 14時

④：明治記念館の庭で、「君が代」にもある「さざれ石」を見物。集積した石が、長年の風雨で結合したものだ。



③ 13時30分

⑤：明治天皇が出入りをする際に使った門の前で。ビジネス相手もすっかりくつろいでいる様子だ。



⑥ 16時15分



⑤ 14時30分

⑥：浅草寺の境内に到着。1歩ずつ石段を上がる。

## 着物姿だけでも強烈な印象を与える

### 周囲の反応がガラリと変わる

あるビジネスパーソンの話。パリのレストランにスーツで行った。翌日、同じ店に着物で行ったら、店員の態度が前日とは全く違い、大歓迎・大サービスをしてくれたそうだ。(きつと同一人物と判別できなかったと思うが)それほど着物を着ると周囲の反応が変わる。また別の話。海外出張でパーティー時に着ようと思いつき、着物を持参した。すると初日のパーティーであまりにもモテてしまったためにそれ以後の旅程は着物で通し、大変良い仕事が出来たそうだ。

日本人の体形ではタキシード、ドレス姿で欧米人に太刀打ちするのは難しい。が、着物を着たら絶対に負けない。心理戦もあるビジネスパーソンにとって自信を持って堂々と行動できるのは重要なことだ。もっと着物を知って活用してみたいかがだろう。

国内でもしかり。外国人の商談相手を伴い、食事や名所を案内する時、着物を着ていくとすごく喜んでもらえる。そこから人間関係を深めていくはどうだろうか。プ

次ページへ



やまと  
日本のふれ

# 違う景色との出合い

連載第二回 着物を着て出かける

真の国際化とは自分の国を知ること。日本を知る新連載2回目は着物で出かける際に役立つ心得、知識を学ぶ。

渡辺幸裕(案内人) ◆ 文  
by Yukihiko Watanabe  
寺尾豊 ◆ 写真  
photographs by Yusaku Terui

さらに深める参考情報…

【書籍】

『男のふだん着物』  
 (鴨志田直樹著、河出書房新社)  
 『一人で着るデイリー着物』  
 (NHK出版編、NHK出版)  
 『森田空美の知的きもの入門』  
 (森田空美著、小学館)

【ウェブサイト】

動画で着付けが学べる 銀座もとじ  
<http://www.motoji.co.jp/knowledge/Kitsuke.htm>  
 ゆかたりずむ  
<http://yukatalism.com/>  
 英語のバスツアー  
<http://www.hatobus.co.jp/eigo/>  
 らっしやい東京  
<http://www.tcvb.or.jp/jp/index-j.htm>  
 Let's Enjoy TOKYO  
<http://www.enjoytokyo.jp/>  
 東京休日案内  
<http://www.winriver.net/tokyo/>

案内人・文

渡辺幸裕(わたなべ・ゆきひろ)  
 ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。  
 前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機にビジネスパーソン向けに日本文化超初心者会「和・倶楽部」を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。



8 18時35分

7: ビジネス相手がお寺にお参りするの初めてだ。家族の健康と、互いのビジネスの成功を祈ってくれた。

8: おみくじを引くと、「大吉」が出た。意味を解説したところ、「お二人に感謝だね」と握手をされた。

9: 両国のそば屋「ほそ川」へ。そば粉100%のそばで日本の味を堪能してもらった。

着物でも疲れはしない。背筋は伸び、ゆったりした気持ちになるから不思議だ。



7 16時30分



9 18時00分

【告知】

日本かぶれの会  
 着物でお出かけ体験講座

記事の内容を体験できるイベント、2回目。着物を着て東京を散策します。お手持ちの着物を着てご参集いただく、お手持ちの着物を集合場所の呉服屋「銀座もとじ」スタッフのサポートを得て着る、もとじで着物をレンタル(実費がかかります)して着付けもしてもらい、など参加者のご要望にお応えします。

日時: 11月14日(日) 13:00~15:00  
 (もとじで着付けをする参加者は、集合時間が早まります)

集合: 東京 銀座もとじ ぎゃらりー泉

募集人数: 10人

参加実費: 1000円(交通費など)

締め切り: 10月22日(金)

応募方法: <http://nba.nikkeibp.co.jp/yamato/> で必要事項をご記入ください。参加者に詳細をご連絡します。

問い合わせ先: info-nba@nikkeibp.co.jp

写真撮影協力: 仲見世商店街振興組合、浅草寺、三菱地所、明治記念館、銀座もとじ

外出時に便利な小物



懐中時計: 腕時計は着物の袖口を傷めてしまう。文字通り懐に懐中時計を忍ばせる方がよい。取り出す仕草も様になるよう、使いこなそう。写真は時計本体が1万円、紐が5250円。

煙草入れ: もちろん煙草入れとしてもおしゃれだが、携帯電話、デジカメ、最近では「iPod」を入れる人もいるそうだ。写真は1万5750円。



合財袋: 物によっては普通の鞆でもよいが、細部までこだわるなら和装用のものを。写真は革と布を合わせたもの。写真は8800円から。

銀座もとじ社長の泉二弘明氏(もといこうめい)に「着物を着る際、知っておくと安心な点を聞いた。まず「袂(たもと)には物を入れない」。形崩れの原因になる。「いすに座ったら手拭いを膝に掛ける」。足を少し開いてもみっともなく見えない。「着崩れた時は壁の方を向き、周りから見えないように気を使って、袷先を引いて胸元を直すのがポイント」だそう。

泉二氏は海外旅行中、麻の長襦袢を愛用する。汗をかいても水で洗って干せば乾き、翌朝も洗い立てを気持ちよく着られるからだ。着物に適した歩き方もある。いわゆる「チヨコチヨコ歩き」をせぬよう着物を着てすぐに「股割り」をして裾さばきをよくする。袷が首の後ろから離れるとだらしく見えるので、背筋を伸ばし胸を張る。せつかくの着物姿だ。着崩れた時の直し方も練習して、凛とした姿勢、格好よい歩き方で気持ちよく出かけよう。侍のように!

\*1 (えりさき) 着物の袷の延長部分。男性の場合、角帯の下に出ているので引きやすい。  
 \*2 (またわり) 足を肩幅より少し広く開き、そのまま腰を下げる。着物などの重なりが緩み、歩きやすくなる。